

か近隣の公共施設や誘客施設、関連団体からの紹介で訪れる方々もあり、連日大勢の方々が来場され、見学者の中には若い頃行った場所もあり、写真を見て懐かしむ方々や初めて見る風景に感嘆し、所在を熱心に聞く方、また「展示終了後は廃棄される物があれば譲って貰えないか?」といった要望もありました。

「山の日」制定を記念した コンサートを開催

「名古屋事務所」「山の日」目前となった八月五日、「熱田白鳥の歴史館」において同館に隣接するレストラン「SLOW Food RESTAURANT 白鳥物語」と連携し「夏休み〜子供も大人も木で遊ぼう!!! ウクレレ・ランチコンサート」を開催しました。

このイベントは、日常的に山を意識する機会が少ない都市部に生活する方々に、「山の日」を目前にして「山に親しむ機会と山の恩恵に感謝する」機運を高めることを目的に「白鳥物語」、プロミュージシャンJuke Okayoshiと名古屋事務所がコラボレーションして催したものです。

二部構成で催し、第一部は木とのふれあいで、一般参加者が同館の催しをサポートするボランティア団体「フォレストサークル あいち (FCA)」の皆さんに教えていただきながら木製の製作に取り組みました。そして第二部はプ

ロミュージシャンのジューク・オカヨシさんによる「ウクレレふれあいコンサート」を催し、コンサート終了後は自然野菜などを中心としたランチで山(自然)の恵みを味覚で堪能しました。

コンサートでは、ジュークさんが「木材に囲まれて落ち着きますね、時間を忘れていつまでも演奏しちゃいます」とトークを織り交ぜながら終始和やかな雰囲気が進められ、デイズニードレーからクラシック、津軽や沖縄民謡まで多彩に演奏され、間伐材で作られたミンミンという楽器の紹介と演奏もあり「山の日」にちなんだ催しとなりました。

参加者からは、「楽しかった。こんなに短い時間で椅子を作ることができるとは思わなかった」「さすがそれぞれプロ



夢中でミニ椅子を組み立てる参加者



ウクレレコンサートの様子

の方々ですね」、木と音楽と料理の達人たちとのふれあいは、五感を目一杯使った楽しい夏休みの思い出となったようです。

「熱田白鳥の歴史館」は木造大空間のホールで、木の良さや林業の歴史を紹介・体感する施設ですが、今回はコンサートという新しい試みとなりました。

各地からのたより

長野国有林森林整備協会北部支部 社会貢献資材引渡

「北信署」戸隠森林植物園では、今年四月の開園前に一部木道が大きく破損し職



長野国有林森林整備北部支部の皆さんと
川村北信森林管理署長(左から2番目)

員により補修を行ってきました。

この補修によりオフィシャルサポーターである日本森林林業振興会長野支部から、今年五月に資材提供頂いた床板の在庫が少なくなり、他の維持修繕にも影響が出る事が懸念されていたところ、毎年秋季に戸隠森林植物園のボランティア作業を実施いただいている長野国有林森林整備協会北部支部から、「会員の土場にある不要となったカラマツを補修資材として提供したい」との申し出があり、長野森林組合の製材所で製材されたカラマツの床板約七十枚が、七月十五日戸隠森林植物園で酒井支部長から北信森林管理署長に引き渡されました。支部長から「土場にねむっていた資材が、このよ



木曽悠久の森を散策

今回は、温帯性針葉樹の保存・復元を図るために設定された「木曽悠久の森」

この学習会は、小・中学校の教職員に森林・林業について理解を深めていただき、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらうことを目的に、長野県と共催して平成十四年度から実施しているもので、今回で十五回目の開催となります。

教職員を対象とした

森林・林業学習会を開催

「ふれセン」八月四日、木曽地域の教職員を対象とした「森林・林業学習会」を、上松町の赤沢自然休養林で実施しました。

うな形でお役にたてる事ができてうれしい」と挨拶があり、北信森林管理署長は「修理資材の確保が厳しい状況の時に社会貢献として資材提供を頂き大変感謝している」とお礼が返されました。今後、戸隠森林植物園の木道補修資材として活用させていただきます。



木曽悠久の森の説明風景

について、先生方に理解を深めていただくために、赤沢自然休養林内の説明に絞りました。

森林鉄道で丸山停車場まで移動し、木曽五木の説明から始まり、その後、普段一般の方が入林出来ない「千本立」、「奥千本」を散策しながら、森林の生い立ちや歴史、「木曽悠久の森」の取組などの説明を行いました。

前日の夕立のせい、澄み切った空気とヒンヤリとした森林の中を、軟らかい土を踏みしめての散策は、私たち職員でも中々に味わうことの出来ない爽快なものでした。

参加した先生からは「身近なすばらし

い自然を教職員、地域の方が理解し、子供達に伝え、つなげていく大切さを、子供達にも伝えたい」、「教師が自然の中で学び、安心する心ができたとき、子供に對して多くを教えることができる」、「遠足等自然体験で来てみたい」との感想が寄せられました。

毎年、先生方の参加が減少傾向にありましたが、今回は木曽地域の十一名の先生方に参加していただきました。アンケートでは、次回の開催希望について「普段入林できない箇所へのエコツアー」を希望された方が殆どであり、これを参考によりよい学習会を計画していきたいと考えています。

インターンシップで

現場業務を体験

「木曽署」七月二十五日から二十九日の五日間、長野県林業大学の学生四名（二年生三名、一年生一名）を受け入れ、現場業務の就業体験を行いました。

単純な山の見学等ではなく、実際に調査等を体験してもらいながら業務内容を理解していただくことを基本に考え、一日目は小木曽国有林（木祖村）での被害

被害対策（食害防止器材の設置、クマ剥ぎ防止テープ巻き、ニホンジカ捕獲用囲いワナで誘因用の餌設置）、二日目は小川入国有林（上松町）での収穫調査体験と森林事務所での調査取りまとめ（復命



食害防止器材「ウッドガード」を設置して

書の作成）、三日目は三浦国有林（王滝村）等での製品生産箇所の現地見学と新上松土場（上松町）での販売業務（素材検知体験）、四日目は小川入国有林（上松町）でヒノキ種子結実促進試験地でのジベレリン塗布等、赤沢自然休養林での木曽悠久の森内を散策しながらのストレッチエクササイズ、最終日の五日目は御岳国有林（王滝村）治山事業地の見学を行いました。

学生からは、「多くの実習が学校の授業で学ぶ内容だったが机上で学ぶだけではなく実際に自分の手で行うことにより理解が深まった」、「ザウルスロボやダブルエンドレス索など言葉や写真で見ただけとはあっても実際に見たりしたことはな

民団連携した低コスト造林の取組 （シカ被害対策（斜め張り方式） 現地検討会の実施）

【南木曽支署】 近年、ニホンシカが森林にもたらす被害は全国各地で増加しており、林業経営に深刻な問題となる中、当支

署管内においてもニホンシカの目撃情報が増え、センサースターカメラによる生息調査に三年前から全署的に取り組んできたところ、子鹿を含めた撮影数の増加や新たな箇所での撮影など、生息数や生息域の拡大が確認され、将来的には森林被害の発生や拡大が懸念されています。

このため当支署では、効率的、効果的なニホンシカ対策の検討を進めており、今回その一環として、比較的lowコストで設置できる、斜め張り方式の被害対策用防護柵（さいねっと）の現地検討会を、七月二十六日に、南木曽国有林314号林小班において、地元自治体や林業事業



収獲復命書の作成



開会式で挨拶する酒向南木曽支署長

署管内においてもニホンシカの目撃情報が年々増えてきたため、センサースターカメラによる生息調査に三年前から全署的に取り組んできたところ、子鹿を含めた撮影数の増加や新たな箇所での撮影など、生息数や生息域の拡大が確認され、将来的には森林被害の発生や拡大が懸念されています。

このため当支署では、効率的、効果的なニホンシカ対策の検討を進めており、今回その一環として、比較的lowコストで設置できる、斜め張り方式の被害対策用防護柵（さいねっと）の現地検討会を、七月二十六日に、南木曽国有林314号林小班において、地元自治体や林業事業



「さいねっと」の性能や設置方法の説明

体から担当者四十名を超える参加を得て開催しました。

当日、開会式では酒向支署長より「効率よく森林資源を循環利用していくためには、伐採、保育に掛かるコストを軽減する必要がある。民団共通した課題であり、協力して効果を実証したい。」との挨拶があり、続いて、現地検討会の講師である大同商事株式会社の担当者から今回設置する「さいねっと」の性能や設置方法などについて説明があり、その後二班に分かれ、一五十メートルほどネットを設置しました。なお、今回の検討会ではさらなるコストの軽減のため、現地の立木を支柱の代わりとして活用したり、林道下の柵はシカが跳び越え易いため、従来の

支柱より長い支柱を使用するなど職員等のアイデアを採用しました。

今回の現地検討会は、あいにくの雨天での開催となりましたが、参加者全員が新たな設置方法の習得や、課題と解決策の検討に真剣に取り組んでいました。参加者からは「支柱も軽量で作業性が良い」や「比較的安易に張ることができた」、「民有地でも試してみたい」などの感想が聞こえる一方で「当地のような多雪地帯で雪の重量にどこまで耐えられるのか」と心配する声も聞かれました。

当支署では、今後降雪時、融雪後に係るメンテナンスコストの検証等を実施し、得られた情報を民有林にフィードバックするなど情報共有することともに、低コスト造林や被害被害対策など民団連携した取り組みをさらに進めていくこととしています。

行事・会議等の予定

◎関東財務局国有財産監査

9月5～6日 木曽署管内

◎国有林材供給調整検討委員会

9月7～8日 名古屋市内

◎森林作業道現地検討会

9月13～15日 南信署管内

◎第二回保護林管理委員会

9月29日 中部森林管理局

シリーズ

「森林官からの便り」



「南信署 駒ヶ根森林事務所」

首席森林官 今村正之

駒ヶ根森林事務所は、長野県南部の伊那谷を流れる天竜川の西側にあたる黒川、赤穂、中田切、飯島、上片桐、大島山の国有林、東側の四徳及び手良沢山国有林の約一万一千鈔の国有林と北は箕輪町から南は松川町までの約千八百鈔の官行造林を管轄しています。

この伊那谷地域は、水田や田畑、里山が天竜川を挟んで広がり、東に南アルプス（赤石山脈）西に中央アルプス（木曾



南アルプスの裾野に広がる伊那谷



氷河が削り出した千畳敷カール



宝剣岳（左）と天狗岩（右）

山脈）と、東西にそびえる三、〇〇〇級以上のアルプスに抱かれた悠久の自然景観を感じさせる美しい地域でもあります。

当森林事務所は、この中央アルプス（北は将棋頭山から南は念丈岳まで）を管理しており、百名山の木曾駒ヶ岳や空木岳、二百名山の南駒ヶ岳などの山々を目指す登山者や、氷河地形で花崗岩の白さとハイマツの緑が鮮やかなコントラストをなす千畳敷カールに来る行楽客など、高山植物や美しい山岳景観を求めて中央アルプスの玄関口である駒ヶ岳ロープウェイには年間を通じて約二十一万人が訪れます。

最近の話題としては、駒ヶ根市が上伊那地域の主体となり、地域の観光資源である中央アルプスのブランド力を国際的に高め地域振興につなげようと、ジオ

パーク化や国定公園化（現在は県立公園）に向けた気運が昨年あたりから徐々に高まり始めており、今年の秋には推進協議会の設立も計画されているところです。

また、もう

一つはニホンジカの問題です。ニホンジカについては従来、天竜川より西側には生息していなかったところですが、近年徐々に中央アルプスでも個体が確認されるようになり、生態系や自然環境への影響、高山帯に向かって生息域が拡大することによる高山植物等への影響が危惧され始めました。こうしたなか被害を未然に防ぐ為、地域の関係する機関が広域的に連携し効果的な対策を講じることが目的として、今年の三月に上伊那地域が中心となり「中央アルプス野生動物対策協議会」が設立されました。

当森林事務所の業務としては、グリーンサポータースタッフによる高山植物の保護パトロールや、センサースカメラやライトセンサスによるニホンジカ等の生息域調査、秋から冬に掛けては地元猟友会と連携した職員実行によるくくり罠でニホ



亜高山体へのセンサーカメラ設置



GSSによるグリーンロープ張り替作業

ンジカの個体数調整など、森林保全管理業務を中心とした業務を行っているところですが、「地域に必要とされる国有林とは何か?」「国有林として地域に貢献できることは何か?」をその都度考えながら地域に密着した業務を微力ながら行っています。

富山県魚津市は、富山県東部の中心都市として賑わってきました。北西には富山湾が広がり「蜃気楼・埋没林・ほたるいか」が三大奇観として広く知られています。

また、来年には第六十八回全国植樹祭が開催されることとなっています。

◇蜃気楼

蜃気楼は大気中の温度差によって光が屈折を起し、遠方の風景などが伸びたり、反転した虚像が見られたりする現象で、当市からは富山湾に浮かぶ工場地帯の風景や反転した船舶などが見られます



富山湾に浮かぶ蜃気楼



す。

蜃気楼は、四月～五月の午前十一時～午後四時頃で気温十八度以上の時に、よく現われます。

見どころスポットの、魚津生地入善線の北鬼江交差点から、海の駅交差点の富山湾沿いの海岸道路は、「しんきろうロード」と呼ばれ多くの方が訪れます。

◇魚津埋没林博物館

しんきろう

ロードの魚津港の近くに博物館があります。

この博物館

は富山湾の二つの不思議と言われる「埋没林」と「蜃気楼」に出会える場所として多くの方が訪れる場所です。

埋没林は、

約二千年前に、片貝川の氾濫によって流れ出た土砂がスギの原生林を埋めつくし、その後海面が上昇し出



水中展示された埋没林の樹根



魚津埋没林博物館



魚津桃山運動公園

展示場では、埋没した樹齢約五百年のスギの根っこをその場で保存・展示しており、縄文時代の気象の変化を証明する貴重な資料として、国の天然記念物にも指定されています。

実際に見ると、その大きさに圧倒されます。

◇魚津桃山運動公園

博物館から、山に向かって約六キロメートル進んだところに運動公園があります。

この運動公園は魚津市の高台に位置し、僧ヶ岳や富山湾を望むことができる自然豊かな場所であり、本格的な各種スポーツ施設から、ピクニックやアスレチックなど、親子で楽しめるコミュニティ

ティパークとして人気を集めています。

この運動公園は来年に開催される「第六十八回全国植樹祭」のメイン会場として使用されることとなっています。

◇洞スギ

南又谷流域の標高五〇〇メートル～七〇〇メートル付近に生林している推定林齢五百年生の天然スギで、幹に空洞があることから洞スギと呼ばれています。

特徴としては、人工林のスギのように地面から垂直に幹が伸びているのとは違い、多くは巨大な石の上に乗るような形で生育しており、その景観からして他では見られない独特の景観を呈しています。



洞スギ

◎アクセス

魚津埋没林博物館

○電車での場合

あいの風とやま鉄道魚津駅から徒歩二十分

○車での場合

北陸自動車道魚津ICから車で十分
(写真の一部は魚津埋没林博物館提供)